



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

第9回森林塾報告 テーマ「林道設計」
 『森に通う道をつくる』

森の中にどれぐらい林道が張り巡らされているかを示す値を林道密度といいますが今の日本の現状はha当たり5m弱というちょっと頼りない数字です。因みに長野県はこれより少し良くて5.8m/haとなっていますがこれで

も十分な長さとは言いがたい。二十年ほど前、造林や木材生産の意欲が旺盛な頃、高密度路網として林道、作業道合わせ50m/haを目標そうというかけ声のもと、林道や作業道の開設が行われていました。(南アルプススーパー林

道が着工された頃です)でも最近では林道の新規開設量はとうやら年々減っているようです。もちろん自然保護との兼ね合いもありますので、必要十分な場所や規模は考えなくてはならないでしょうが、山里から町に向かう道を整備するのと同じように、伐って出して、手入れする、山里から森に通う道も、もう少し充実させなくてはいけないと感じ



総勢43名でみるみる道は伸びてゆく



今日に備えて保科先生はヤマウルシなどの灌木を刈っておいてくれました。

じます。

夜中の土砂降りも上がり、昨年に引き続き保科先生の元マツタケ山をお借りしての林道設計、歩道開設でした。コンパスの高低角を6度に固定して、基点から5mずつの

ついた模様です。午後は平面図と横断面図を書いた後、測点をつないだ歩道をトンガで造りました。さすが大人数の強み、見る見る総延長二百mほどの歩道が完成してしまいました。

測点を取りそこでの横断も測りました。後藤班はコンパスが初めての方が多く、扱い方からの説明でしたが、皆さん飲み込みが早く他の班に追い

一人ではれば3日掛かりか4日掛かりか、うんざりする距離でしょうが、これで保科先生の元マツタケ山はha当たり数百mの高密度路網歩道のき



後藤班に測量未経験者が集まった。



おじいちゃんと一緒にお手守りをしてくれました。鈴木さん安心してコンパスを覗く。

のこ山になりました。マツタケは期待薄だそうですがホンシメジ、キシメジ、シヨウゲンジはまだまだ出るそうです。先生に一声かけて、その時期に覗いてみましょうか。

今回の内容

第9回 9月9日(土)

林道設計

- 8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。あいさつ、林道設計の概要の説明。
- 9時30分 車に分乗して長谷村溝口の保科山林へ
- 10時30分 測量の説明の後、4班に分かれて測量開始
- 12時 昼食 今年も保科先生手作りの豚汁。お腹いっぱい、ごちそうさまでした。
- 1時 測量の終わった班から製図開始。眠い目をこす



側点の左右2mづつで横断をとる。

2時 トンガを使って歩道つくりを開始しました。県からお借りしたトンガはおかたが新品で細い根っこくらいはスパスパ切れる。土も軟らかく、大汗をかかまえに作業終了です。

3時30分 解散。カーブの設



なんとなくあやしい山口(亜)さんのコンパスマンに、じよんのび藤原のチェックがはいる



お手のものかな? 田中さんの製図

定や土量計算など、一日ではなかなかそこでいけません。がそれほど難しいものはありません。簡単な作業道くらいなら今日やった知識と小型のバックホーが一台あればできてしまします。一度どこかで重機を使って道を



大鍋一杯の豚汁が完成し運ばれる

造ってみたいものですね。

参加者/池田さん、稲垣(久)さん、宇津さん、梅木さん、太田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、神田さん、坂田さん、坂本さん、佐藤さん、塩田さん、鈴木さん夫妻、須藤さん、田中さん、中村(輝)さん、芳賀



自分達でつくった歩道を巡って山をおりる、待避所まである立派な歩道だ。

さん、松下さん、皆川さん、森さん、山口(亜)さん、小川さん、奥田さん、奥本さん、粕谷さん、金子さん、佐野さん、村谷さん、山口(み)さん、大竹さん、竹内さん、浜田(久)さん

講師/保科先生、島崎先生

スタッフ/川島、川原、後藤、中村、藤原、坪木、早川



昼食後のひととき、縄文さんによるケーナコンサート

次回以降の予定

第10回 9月30日(土) きのこ狩り

8時30分 島崎先生の山小屋に集合 場所は未定です。昨年、一昨年と二年連続で雑きのこ(マツタケ以外のきのこ)は不作です。今年はさてどうでしょう。9月になって平均気温が高めに推移し、平年より時期が遅くなるかもしれません。また雨量はここになってようやくまとまった雨が降りましたがこれももう少し後にならないと何とも分らない状態です。お弁当、びくなどの入れ物、たくさん穫れたらきのこ汁です。

第11回 10月14日(土) 市場見学、木造家屋の見学を予定しています。

今回の復習&豆知識

林道規程の各条で林道の色々が設定されています。箇条書きで説明してみます。

設計車両

1級および2級：普通自動車(長さ12m、幅2.5m)

3級：小型自動車(長さ4.7m、幅1.7m) 小型といっても軽トラよりは大きい。普通乗用車よりも更に大きい。

設計速度(時速km)

1級：40、30、又は20

2級：30又は20

3級：20

林道の幅員

1級：4m

2級：3m

3級：2m又は1.8m

1.7mの車幅で1.8mの幅員では恐ろしすぎると感じますが、じつはその外に路肩の部分があります。

路肩

0.5m以上とする。ただしやむを得ない場合は0.25mまで縮小できる。

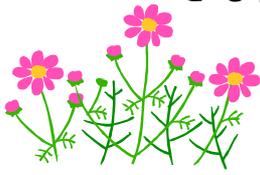
曲線半径

林道の区分ごと、設計速度に合わせて設定されています。少なくともこれだけは確保しなさいという値を上げてみますと、1級で時速40kmの場合：40m、同時速30kmの場合：20m、同時速20kmの場合：15m

2級で時速30kmの場合：20m

同時速20kmの場合：10m
3級は時速20kmで6mで
す。すべての曲線は円の一
部に設定されています。
又、曲線部は拡幅をするの
が望ましいとしています。

最大のくらの勾配に
設定できるかという値。こ
れも区分と設計速度に関係
します。1級で時速40km：
10% 同時速30km：12% 同
時速20kmで：14% 2級で
時速30kmで12% 同時速20
kmで14% 3級は時速20km
で14%となっています。勾
配は水平距離に対しての高
低差となります。因みに先
日お配りしたプリントにも
ありました。これらがどの
くらいの角度になるかと
いうと、10%は6度弱、12
%で7度弱、14%は約8度
になります。最近の車は性
能が良く、特に四駆の車な
どは未舗装道路の走行性や
登坂能力に優れています。荷
を積んでの下り坂という
点での安全性を考えると
このあたりが限度かなとい
う数字です。その他、林
道規程には縦断曲線や、待
避所の設置
についても
など規定さ
れています。



リレー通信

「三年かけて卒業しよう。」

塩田 政一



六月の二回目から三回連続
で休んでいる劣等生です。第
五回の下草刈り、第六回の測
量と製図、第七回の間伐と、
森造りの肝心な事を学んでな
いのですから、来春を待つこ
となく留年は必死の劣等生で
す。

昨春、森林文化協会(朝日
新聞)の「グリーン・カレッ
ジ」に参加していた折に、協
会の担当の方から浜田久美子
さんの「森をつくる人びと」
をもらいました。「森を見る
だけではなく、造る人にもな
りなさい。」というアドバイ



又だつたのでしょうか、その
時はこういう人もいるのかと
いうくらいにしか考えません
でしたが、昨年の八月に開催
された信州大学の林業教室
で、島崎先生の森林塾を訪ね
る授業がありました。「大変
な時代を迎えている」という
先生の講義を伺って、森の大
切さを知るだけではなく、「
森を造る人にもなる」と
決意させてくれた教室でし
た。

私は、平成元年から群馬県
の片品村の丸沼高原スキー場
近くで、ささやかなロッジを
開いておりました。過去形に
したのは、この三月で廃業し
たからです。入塾要項を取り
寄せた森林塾は何と第二、第
四土曜日に開講するとあるの
です。学校が休みですから宣
伝をしなくても宿泊客のある
土曜日なのです。ロッジを
開いていれば、どうしてもそ
ちらを優先せざるを得ないの
で、この際、森林塾に徹しよ
うと、顧客に「営業を終了し
ました」という

少し力を入れることにしまし
た。長期欠席の言い訳になり
ますが、どうしたことが、こ
れが六月に入ってからメチャ
クチャに忙しいのです。現
在、会員数二十三名、尾瀬を
はじめ日光白根山などのガイ
ドの事務局を一手に引き受け
たので、受付からガイドの手
配、間に合わなければ自分で
ガイドと、ロッジを開いてい
たときよりも忙しいのです。

ロッジを開く前の二十四年
間、キャンプ場で仕事をして
きましたので、火を燃やすこ
とと飯盒で飯を炊くことは得
意なのですが、職場が日光国
立公園の特別地域でしたか
ら、倒木を切って薪を作るこ
とはあつても、立木を伐採す
ることはほとんどありません
でした。第三回の「伐木造材」
は二十mを超える大木の伐採
の難しさの中にも迫力があり
ました。チェーンソーを水平
に入れるのとツルを残す難し
さは、数多くの経験が必要だ
なと痛感させられた一日でも
ありました。

伊那市まで片道約三百km、
前日の夜八時に家を出て、沼
田ICより高速に乗り、梓川SA
に0時着、車の中でシュラフ
にもぐり込んで六時起床、
コーヒーを湧かしパンを焼い
て、七時に出発すれば鳩吹公
園に八時着です。一人では大
変なので一回り以上も年齢の
違う須藤君を誘っての参加で

す。彼は地方公務員の現役な
ので忙しい身、でも「三年か
かって卒業しよう」と二人
で決意も新たにしています。
片品村は総面積三万九千二
百一ha、その九十一・八%が
山林です。国立公園を含めた
保安林は八十四・二%です
から、木材生産の山林は八千
九百ha。その約半分が手入れ
不足の民有林です。その片品
村に分校を造ろうと遠大な夢
を描いているのですから、何
としても卒業しましょう。三



「ふる里に帰って」

小沢 尚子



年後には還暦を過ぎてしまっ
けれど、保科先生や島崎先生
からは「まだまだ十年早い」
と笑われそうです。でも内緒
の話ですが、四年の留年は考
慮していただけませんか？
小生のホームページのアド
レスは次のとおりです。興味
のおありの方は覗いてみて下
さい。そんな物好きな方はい
らっしゃらないかな。
<http://www2.ocn.ne.jp/~shioda/>

「おい、ヒノキ植えたところ
の草刈ったかい？」田んぼ
で草取りをしていたら、飼料
用とつものこしの手入れに來
た富田さん(通称ヒンサ)か
ら声をかけられました。
「オラあ、今日はあのカラ
マツ林の枝打ちして来ただ
じ。」
「えらいきれいになったね
。けどあっちの赤松林も、

その隣も混み過ぎてるで、間
伐しなきゃいけないよね。」
「ああ、補助金が出るで、山
主に声をかけりや幾らでも仕
事はあるだけだ、年金もある
でね、そんなにやらねえ
だ。」
大酒飲みだし、あんまり上
品とは言えないけれど、ヒン
サは村の一人親方です。伐出
用に大きな赤牛を飼ってい
て、「オレの牛ならどんなと
こでも出せるせ。」と自信
満々。農繁期には大型農機
で、お年寄り達の田畑を耕耘
から脱穀までまとめてガート
やってゆきます。この人のお
陰で、皆なんとか細々と山や
田を守って来ることができま
した。しかし、ヒンサも六十
六才、続く人がいません。こ
の仕事、今の山村にはとても
大切な仕事だと思ふし、又、



こんな風にすれば暮らしてゆけるのかと感心します。私にもう少し体力、気力があつたらな弟子入りを。

「皆、目がかすんで尺もとねえで、オジョーさん(私のこと!)に山仕事のバイトさせてやっても良いが、かあちゃんやきもち焼くで、ダメ。」なんだそう。

この春、一人暮らしの母の待つ伊那谷に帰ってきました。ひとめぐりの旅が完結した様な、二ユートラルな気分を楽しんでいます。十五年前、自分が何の為に生きているのか考えあぐね、やけっぱちで歯科技工士をやめて、ネパール、インドの旅に出たのが始まりでした。アンナプルナ山中で、八千メートルの峰々の前に立つたとき、涙があふれて止まらなくなりました。気がつけば心の奥深くにあつた絶望感がすっかり消えて、幸せな気持ちでいっぱいになっていました。それは今に続いていきます。多分この世に、真に純粹で美しく、貴い

ものがあること、自分はその中に在るということを初めて知つたのだと思います。それからネパールやインドの人達と友達になってゆく中で色々感じたのでしよう、帰つてから心の動くままに進んでいったら、慈しみそのもののような老僧と出合い師事する事が出来ました。それから熊本の「アンナプルナ農園レストラン」という自然食の店で働き始めました。女ばかりの素人集団が、多い日には昼だけでも百人分はサービスするのだから、てんやわんやです。「目標はそれぞれに自給する事、その為の一步として、まず女が社会に依存しないで自立する方法を学ぼう。」というオーナーの考えに共鳴したメンバーが集まりました。休日は農場で、お茶、米、野菜を作つていたので皆で手伝いにも行きました。大根が穫れすぎて、大根づくしの定食になつたり、ター菜洗いに毎日二時間かかってしまつたり、大変ですが四季を感じながら働くことが出来るのはうれしい事でした。ところが半ばから店の経営を私がするハメになつてしまつたのです。自慢じゃないけど、銀行さ

んだつて店員と誤るイゲンの無い私。とにかく人がほつとする場を作ろうと思つて働いていたら、「ここに来ると気持ち良いので、安心すつとですヨ。」と来る度に、ご飯を食べながら居眠りをするおばあちゃんまで出現!こりや成功したと言えるでしょうか。まもなくレストラン生活も十一年になる頃、梅原猛、安田喜憲といった人達の本と出会いました。縄文時代一万年を森と共生して来た日本人の「森の心」が、現代の危機を乗り越えてゆく力になるであろう事。又、日本には「山川草木悉有仏性」という教えがある事を知りました。ああそうだ。私は山川草木に喜んでもらえるような働きがしたかつたのだと気がつきました。全部の生き物が、つながり合つて喜ぶような場が出来たらどんなに良いだろうと考え始めたら、すんなり仕事が終わり、長野の緑の中で働ける様になりました。とは言つても、毎日畑で、自然のエネルギーの凄さ、自分の非力さを思い知らされているばかりですが。(ちよつと弱気になつてゐる?)

今森林塾で、森の心いっぱいの方々と会うのがすごくうれしいし、何より楽しみながら、山のために無私の働きをされている両先生の生き方を、近くで感じさせてもら

える事を心から感謝しています。私も十一年後、ちよつとは見習えるよう、今できる事ひとつひとつを大切にしたいと思つていきます。

この冬は十数年放つて置いて、二セアカシアがどつさり生えてしまつた畑とそれに続く大きな土手を整理して、炭焼きしたいと思つていますが、もちろん塾で教つてからですが、一緒に挑戦してみたい方、声をかけて下さいね。



践してきたこと」の紹介や相談会を行うそうです。じよんのび藤原も手伝つ予定。十時三十分から十五時、雨天決行。安全な食材の試食販売、フリーマーケット等もあります。実行委員長である、自然食レストラン「さんさくら」(次回ご紹介します)の佐倉さんのネットワークでアフリカの太鼓の演奏も。箸やカップ持参でお越し下さい。詳細はじよんのび経由OLIVEまで。【OLIVE三輪】

その「生活クラブ」が扱っている丸大豆醤油の生産者の方に伺つた、減塩醤油の作り方。卓上用の瓶の中に酢を混ぜるのだそうです。初めは少し、段々慣れてきたら酢を増やしていく。酢が二割になると塩分はこいくちの場合、十六・三%から十三%に減るのだそうです。その方は今や半々ぐらいでも平気らしいですがね。家では適当にトポトポつと入れていきます。塩分が気になる方、是非お試しを。

残念ですね。【OLIVE三輪】

おわりに

長野県は冬が早いので秋野菜をもう時かなくてはなりません。漬物にするための大根や白菜の種を蒔きました。しかしようやく出た芽をダイコンサルハムシ(3ミリほどの甲虫)とナガメ(菜っ葉につくカメムシの仲間)にはしから囃られています。農薬を使うのも多少抵抗があるし、話せば分かる連中でもありませんので毎朝ピンセットを持つての戦いです。(炭焼きマン中村さんにもらつた木酢は彼らには効かない)どなたか良い知恵を貸して下さい。これから芽が出る野沢菜でもこんな戦いを続けるのか自信がありません。

お知らせ

森林塾通信をKOAホームページに掲載しました。インターネットをご利用可能な方はぜひ御立ちよりください

<http://www.koanet.co.jp>

立ち寄り情報

10月1日(日)私を含め塾関係者も数名加入している「生活クラブ」のイベントが駒ヶ根市の家族旅行村であります。テーマは「わたしから始まるエコライフ」。その中で皆さんにお奨めなのが、伊那在住の大工富澤さんのブラス。「木造住宅の可能性を素材生産から工法、廃棄物になつた時の処理まで考えて実

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065

FAX 0265-70-7994

E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp

mi-tsuboki@koanet.co.jp

携帯:0902-53-26375 (開催日)

